



▲横舟西之谷遺跡出土銭

History

キラリを再発見 あさいな 朝夷氏の詰の城と 位置付けられる城跡

横舟城跡は、朝比奈川の右岸に位置し、横舟川と岩地川に挟まれた丘陵上に立地しています。東側の麓にある朝夷氏の居館跡と伝えられる藤ヶ谷館の詰の城と位置付けられます。

横舟城跡は、標高76^{メートル}、比高は約30^{メートル}で、南北に約360^{メートル}と細長い形状をしています。中央部には本曲輪が1つあり、北端から北東側にかけて土塁が残っています。本曲輪の西側が腰郭と堀切で守られている以外は堀切で守られています。

横舟城は、台地上の細尾根を通路と小さな曲輪として使っており、台地上の主尾根と東の支尾根を切る堀切が多く配されています。

これらの遺構には、新野地区の舟ヶ谷城山や八幡平城跡とよく似た特徴があります。二重堀切や横掘など、武田式築城法の特徴が認められることから、戦国時代の高天神城の攻防戦時、武田方の城として再利用、修築されたことが明らかです。

市内新野地区



埋蔵文化財包蔵地 横舟城跡

照会 社会教育課 ☎0548③1129

御前崎市は10月19日、市民が抱いている原子力に関する疑問や不安に答え、今後の原子力行政に役立てるため、市役所で「原子力に関する意見交換会」を開催しました。意見交換会には町内会長や商工会、農協、消防団、民生委員など各団体の代表者ら43人が参加しました。

最初に石原市長が、浜岡原子力発電所を受け入れた経緯や発電所に寄せる先人の思い、近年の原子力を取り巻く状況を振り返りました。続いて倉田千代治浜岡原子力総合事務所長からは、海拔22^{メートル}の防波壁の建設工事や高台へのガスタービン発電機の設置など、原子力発電所に関する安全性向上対策工事について説明がありました。



意見交換会の様子

参加者の意見交換会では、8つのグループに分かれ、「原子力に関する疑問・関心事」

「浜岡原子力発電所が御前崎市に与えるメリット・デメリット」をテーマに話し合いました。疑問や不安、関心を持っていること、中部電力や市などへの要望事項、アイデアなど、さまざまな意見が出されました。

今後、意見交換会の様子や寄せられた意見などは、市のホームページで紹介していきます。

Atomic

暮らしと原子力

原子力をめぐり意見交換会
市民の意見を原子力行政へ